

Spread your wings, life is a moment.

手稻溪仁会病院 外科 今村清隆

この度、JHS のフェローシップを頂き APHS に参加させて頂きました。参加動機は、2年前の冬に東京ドームホテルで行われた APHS に参加し、普段あまり目にしないような腹壁癒痕ヘルニアの手術を見て非常に興味深く感じたことです。

昨年の台湾はスケジュールの都合で参加できず、今年はドバイと聞いて是非参加したいと応募しました。ホームページ上の抄録締め切りが 9 月 1 日に関わらず 8 月中に英語と中国語のスライドを送るようにメールで指示があり、ポスターセッションについてもデジタルなのか紙なのかもわからず非常に困惑しました。何度もメールでのやりとりが必要になり、日本の学会のように準備についての丁寧な案内がホームページにないため非常に不親切と感じました。英語で作成してから中国語への翻訳を外部に依頼し、出発 1 週間前に無事に英語と中国語の二か国語のポスターが完成しました。

朝 7 時にドバイ空港に着くとすぐに学会会場に向かいました。ピラミッドを真似て作られた豪勢なホテルの 3 階に会場がありました。10 時からの開会式で、司会から最初に各国の言葉で挨拶がされましたが、その中に日本語が含まれていなかったのが残念に思いました。「一帯一路」政策の影響のためか、中国が非常に目立っていました。アジア圏からの発表者は英語については必ずしも上手ではありませんが、ヘルニアについての熱意は伝わってきて、それでも十分だと知りました。サウジアラビア、バングラディッシュやシンガポールの医師とも仲良くなることができました。自分にとって初めての国際学会への参加でしたが、共通の関心事があるので仲良くなるのは難しくありませんでした。

学会内容についてですが、全体として癒痕ヘルニアのセッションが非常に多くありました。TAR の術式や Biosynthesis mesh の成績についてなど学ぶことができました。また鼠径ヘルニアについては、ガイドラインに準拠した治療とテイラーメイド治療のどちらがよいのかなど、高名な先生同士の熱い議論を聞くことができました。肥満外科とヘルニアを担当している海外の先生に多く会いました。その際に、日本人に肥満が少なく苦勞が少ないだろうと言われますが、日本では高齢で Frail なことに対してより注意する必要があり、同じ腹壁ヘルニアでも若干異なる対象を扱っていると思いました。

ドバイについては、自分が出発前にあまりに無知であり、事前に「日本人だけが知らない砂漠のグローバル大国 UAE (加茂佳彦著)」を読みました。ドバイはアラブ首長

国連邦 UAE を形成する9つの国のうちの1つで、UAE の首都は隣のアブダビであり、UAE に居住する9割が外国人労働者で途上国からの出稼ぎ労働者が非常に多いこと、所得税が賦課されないことや、治安が良く清潔で衛生的な国であるとのことです。実際に訪れると、全てが想像以上でした。東京とも変わらない安全で快適な生活があり住みやすい場所と思いました。

今後の目標については、APHS Fellowship に応募し1ヶ月間の研究を経ることでアジア圏のヘルニア学を日本に取り入れることです。世界中のヘルニア専門家と手を取って日本も躍進する必要があります。これからもヘルニア学の進歩に貢献したいと思います。